

台風21号から見た課題を検証

自分の命は自分で守る!

「自助」強化の大切さ

夜、寝ているときに大きな地震が発生したら…。豪雨や台風などで水害が発生したら…。昨年発生し、甚大な被害をもたらした台風21号を受け、大正区役所では区政会議において、区民のみなさまとともに、区役所の情報発信はきちんと区民へ伝わっていたか、地域の連絡体制はできていたかなど様々な視点から課題の検証を行いました! 今一度、何ができるのか? 何をしなければならないのか? みなさん一人一人の防災力を見直してみましょう!



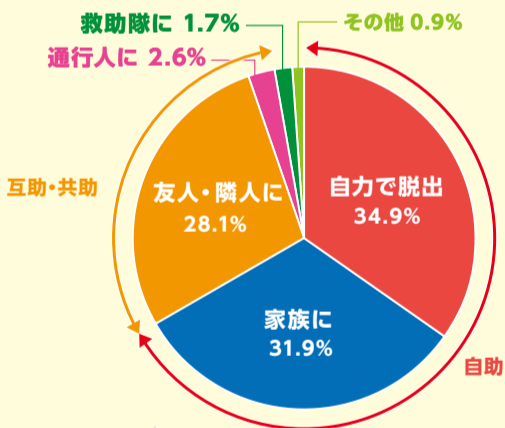
平成31年2月26日に行われた区政会議
テーマは「台風21号にかかる課題の検証について」区役所ができること、地域ができること、一人一人ができることを考える。

台風21号の検証では、災害に対して区役所など公的機関が行う「公助」の限界と、区民一人一人が行う「普段からの備え」の重要さが見えてきました。

会議の内容はホームページでもご覧いただけます。



区政会議の検証結果



阪神・淡路大震災では約98%の方が、**自助・互助・共助**によって救出されています。

解説

- 「自助」…自分(家族)の命を自分(家族)で守ること
- 「互助・共助」…隣近所・地域の皆さんで互いに助け合うこと
- 「公助」…消防などの行政機関が救助すること

自助

連絡体制
地区防災計画を確認、理解。町会への加入や地域活動にも参加する。

備蓄
日頃から最低限の物資の備蓄を心がける。

情報収集
SNSを活用し、緊急情報を自分で収集できるようにしておく。

訓練
地区防災計画に基づいた防災訓練に参加する。

互助・共助

連絡体制
地区防災計画を策定し、情報連絡体制(*)を確立し、地域に広める。

備蓄
物資の備蓄に関して、日ごろから啓発を行う。

情報収集
電話や無線に頼らない別途の情報受信方法を確立。

訓練
地区防災計画に基づいた防災訓練を実施する。

(*) 情報連絡体制…区役所 ↔ 町会 ↔ 班 ↔ 地域住民

まずは自分の身は自分で守る!

大正区では

「自助」を基本とし、「自助」を「互助・共助」「公助」でどうサポートしていくかという観点で災害対策に取り組んでいきます。

連絡体制
学校や地域との連絡体制の確立。

情報発信
平時から防災スピーカーを活用。緊急情報の掲載場所を広報。

備蓄
最低限の物資を備蓄。(区内の各学校に300食備蓄)

訓練
区総合防災訓練を通じて、地域・学校との連絡体制を定期的に確認。